

平成22年10月1日

「何が【お詫び】だ」 対馬新聞、報道の責務を放棄したか 十番議員 小宮教義

まあ何と情けない事か。読者の意を殺ぐ様な記事が、九月二四日の貴社新聞の一面に有り、読み終えてから怒り心頭した。

一週間前の記事に関するお詫びの内容である。人名等の記載間違いならばまだしも、何故、常識的見識を記した記事をお詫びせねばならないのか。

非常識不可解である内容は、ファンシフルフライデー文中の『イノシシ退治に関しては聞く耳もたずといった感がした』と記した部分である。私も全く同感。聞く耳持たずと理解している。

そんなたわいない事で何故お詫びの必要があるのか。貴社は報道機関として体を成しているのか。報道とは一点に囚われず常に社会全体を客観的にとらえ報道するそれが責務である。特に新聞社に於いては尚更のこと。今回は市の要請に応じての事であろうが、権力に屈し客観的意見を曲げるなど、報道の恥晒である。貴社の信用性は何処に。

尖閣諸島の中国漁船だ捕問題で、中国の恐喝に屈すると同じではないか。そんな事では読者を失う事にもなりかねない。尖閣諸島は日本国の領土であり国内法により処分するのは当然である。

市という権力者に屈してどうする。又、詫びよと言う方も言う方だ。小さい記事の重箱の隅を突く様な暇はあるまい。そんな時間があれば市民の事を少しでも考えてはどうか。市職員はくびにならない良い職場である。失職し対馬を去る人が多い事、最後は市職員だけが残る訳にもいくまい。

私も同感と言ったのは、質問をした本人だからである。提案した陶山訥庵イノシシ退治作成には、長い時間と関係者にご苦勞を掛けたが、今回が初めてではない。

既に私が昨年市に提案していたが、その後資料等の説明を求められた事も一切ない。形成りと行うのが常識、結論的に言うならば(やる気無し)が主文であり貴社の記事は正当である。詫びるのは市側にある。

何故なら、市民、市議会議員の声すら聞く耳もたずといった感があるからである。記事を批判するのではなく、何故、記事になったのかをもっと真摯にうけとめるべきであろう。